



「こんにちは 市長です」

2月1日号

北海道紋別市の2021年度のふるさと納税は153億円の収入ですって。2万人ちょっとの人口で、です。一人70万円ずつ配ってもおつりがくる計算。私だったら市民税をゼロにしてみましたね。片やふるさと納税の赤字に悩む都市のトップは横浜市で227億円、もらった分より出ていった分と経費の方が圧倒的に多い。こんないびつな税のやり取りはいかがなものですかね？ またふるさと納税で8300億円ものお金が動いていますが、貴乃花が宣伝している「ふるなび」とか「さとふる」などの企業に13%前後、1千億円も取られてしまう。市民が市民サービスを受けるために納める税なのにです。これでは企業に納税しているとも言えます。市町村民税で取ったり取られたり、企業に大金を横取りさせる制度はやめた方がいい。国がこういう理屈に合わない制度を作ったのだから、所得税など国税でやればよいというのが、私の意見です。

一般論ですが、生まれて高校を卒業するまではふるさとで教育を受けます。その後、そのまま生まれ故郷で生活する人、都会に出ていく人それぞれです。教育費だけで一人260万円ほどかかると言われています。「お世話になったから感謝の気持ちです」「わずかですが地元の産品をお送りします」というのがふるさと納税。美しい姿だなあと勝手に解釈していました。ところがとんでもない、ただ返礼品を求めてということです。返礼品が届き、おいしくいただく。そしてごみが出る。ごみは黒字の自治体や「ふるなび」などの企業が片付けるはずもありません。結局、市税でごみ処理をします。

負け惜しみみたいなことを書きましたが、制度がある以上、赤字にはしたくない。今は黒字です。残念ながら全国的に物産をPRできていないのは事実。危機感は感じています。早めに再度作戦を練りたい。お知恵をいただきたいと思います。(1/16記)